

取組の概要

計画作成主体：八頭町農業再生協議会
鳥取市農業再生協議会
対象品目：果樹（西条柿）（産地面積60.8ha）
主な取組主体：鳥取いなば農業協同組合
成果目標：販売額の10%以上の増加（単位面積）
基準（H28年度）361,695円/10a
目標（H31年度）404,314円/10a
導入施設等：整備事業（農産物処理加工施設、集出荷貯蔵施設：自動個包装機）



ポイント

【取組の主題(テーマ)または課題】

西条柿は、10月中下旬～11月上旬の出荷ピーク時に出荷が集中して販売単価が低下し、農家所得も低迷している現状において、一部あんぽ柿加工や個包装冷蔵の取り組みを行い販売単価の低下を食い止める努力をしている。しかし、更なる農家所得の安定のためには、あんぽ柿加工及び個包装冷蔵品出荷の拡大が必要。



【産地の体質強化に向けた方策】

- ①あんぽ柿増産による更なる販売額増加のための施設整備
- ②あんぽ柿原料の貯蔵ロス減少のため、生果品の出荷開始時から一定量を加工
- ③個包装冷蔵品増加による販売価格の向上のための自動個包装機の導入

推進体制

・東部農林事務所(県)
・八頭町、鳥取市
・鳥取いなば農協

指導・助言

・協議会と取組主体(農協)と一体となって柿生産量の維持
・行政機関(県、町)及びいなば柿指導協議会によるサポート体制

いなば柿指導協議会
①いなば柿栽培暦の作成
②柿生産者への技術指導

情報共有

取組主体(農協)
①取組計画の作成
②取組実施 等

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・いなば柿指導協議会による栽培暦の作成
- ・定期的な栽培技術講習会の開催
- ・町単独事業による優良園の中間管理の実施

期待される事業効果

【事業実施による直接効果】

- ①あんぽ柿増産による販売額の増加
- ②貯蔵期間の短縮による貯蔵ロスの減少
- ③個包装冷蔵品増加による販売価格の増加

【事業実施による間接効果】

- ①担い手による作付面積と生産量の維持
- ②西条柿のブランド品割合向上により、販売単価も上昇



販売額が増加

～西条柿の販売額～

